

図書館情報学橋会会報 第13号(通号19号)

2012年9月発行 発行者 社団法人茗溪会支部図書館情報学橋会

素晴らしき先輩たちの心意気を繋いでいきたい 7

図書館情報学橋会会長 森 茜

図書館を草の根で支えた人

…菅原 峻さんのこと…

今年の夏は異常に暑かった。暑いばかりでなく、天候がとても不順だった。東京では、唐突に空の一角が真っ黒になったかと思うと急激な大粒の雨に見舞われたという経験もしばしばだった。全国各地で突然の集中豪雨の被害ニュースが続いていた。そんなある日、私は日本図書館協会の3階にある「資料室」で、本を読むでもなく閲覧席に座っていた。そして、ふと背後の未整理図書の本を覗いたとき、乳白色の分厚いクラシックな簡易装丁の本のタイトルに目が釘付けになった。

そこには「図書館の明日をひらく 菅原峻 BIGLOBE メルマガ『カプライド』」とあった。小さく息をのんで手に取り開いてみると、そこには、菅原峻さんが2006年3月から2010年3月まで、4年間にわたって書き続けたブログの全てが再録されていた。この本は、2011年6月に菅原さんが亡くなった後、半年以上も経ってから有志で開催された「菅原峻さんをしのぶ会」がきっかけで生まれたと、菅原峻さんの弟 菅原勲さんが明かしている。菅原勲さんも図書館職員養成所の卒業だ(1955年卒)。

切々と訥々と、しかし情熱的に語られた菅原さんのブログは、一冊の本にまとめられると、全編を通して貫かれる菅原さんの人生観に満ち溢れ、豊かな自然林の中をゆっくりと歩んでいるような思いになる。ブログというのは、一遍々々は日記風に短い文章なのだが、菅原さんは、文章が特段にうまいのだ。そのため、最初から一冊の本にするために編まれたような読後感が生まれている。内容は、図書館に直接に関わるものが圧倒的に多いのだが、その時々々の社会や人々に対する洞察がしっかりと書き込まれ、骨格のはっきりとした大きな自然林となっている。その自然林の中に図書館たちが蕭々と息づいている。

圧巻は、挿入された「菅原峻 図書館計画MAP」だ。これは、菅原さんが主宰していた図書館計画施設研究所が手掛けた全国各地、98館の公立図書館建設基本計画の地図帳だ。

菅原さんは、1926年北海道に生まれ、1953年文部省図書館職員養成所を卒業した。卒業と同時に同年4月から社団法人日本図書館協会(以下「日図協」と記す。)に就職した。日図協在職中に全国の公立図書館の問題に深くかかわるようになった。そして事務局次長にまでなったのだが、日図協在職25年で自ら日図協を退職してしまった。当時の日図協内部における活動方針への違いによる確執があったとも聞くが真偽のほどはわからない。しかし、その後の菅原さんの活動ぶりを見ると、そのようなことがあったのかもしれない、ふと思う。なぜなら、菅原さんは、日図協をやめると直ちに「図書館計画施設研究所」を設立し、以後、全国を駆け巡り、当時、全国各地に澎湃として起きた公立図書館設立運動や建設運動に深くかかわって行ったからだ。言わば、菅原さんは日図協をやめることによって、全国の図書館を草の根で支えることに成功したと言っても過言ではない。

…松岡 要さんのこと…

日図協と言えば、現在の事務局長 松岡 要さんも図書館短期大学1967年の卒業だ。東京都目黒区立図書館の館長に就任後、日図協の事務局に入り、事務局長として10年にわたり、全国の図書館問題に取り組んでいる。私が松岡さんとの知己を得たのは故鳥居美和子さん(図書館講習所1934年卒)の紹介がきっかけだが、もう40年以上も続く関係だ。松岡さんの眼も、草の根の図書館運動の眼だ。その労を多としたい。

(2012年8月31日記)

あれから 10 年

筑波大学情報学群 知識情報・図書館学類長 長谷川 秀彦

もうお忘れだとは思いますが、2002 年 10 月に図書館情報大学と筑波大学が統合し、この 10 月で満 10 年になります。昔、東京の下馬にあった図書館短期大学が茨城県筑波郡谷田部町に移転し、1980 年に図書館情報大学 図書館情報学部 図書館情報学科の創立となりました。図書館情報大学が統合してできた筑波大学 図書館情報専門学群(=学部)からは、2007 年 4 月の学群再編で情報学群(=学部) 知識情報・図書館学類(=学科)と情報メディア創成学類が誕生しました。図書館情報学を引き継いでいる知識情報・図書館学類は、つくばエクスプレスのつくば駅から徒歩 10 分の筑波大学春日エリア(つくば市春日)にあり、2012 年 3 月に 2 期生が卒業したところです。

地域が大きく変貌を遂げたように、組織の名称や、学生数はいろいろと変って、現在の知識情報・図書館学類は定員 100 名、3 年次編入 10 名の体制となっています。全国的に情報を扱う学部・学科は増え、パソコンを使うのが常識となったためか、情報系の学科に昔ほどの人気はなく、入試倍率 3 倍程度のふつうの学科となっています。学生の図書館志望は相変わらずですが、求人が増えるような状況にないのはご存知のとおりです。

最近の春日エリアの大きな変化は、女子学生宿舎リニューアル、研究棟の耐震補強工事、春日ラーニングコモンズでしょう。宿舎のリニューアルでは、外壁やベランダが昭和の公団住宅ふうからモダンでカラフルになり、補食室にあった洗濯機・乾燥機がコインランドリー方式になり、個室の備品が整理されてリースのエアコンが使えるようになっていました。なお、宿舎はずっと前から LAN 完備です。

昨年の地震では研究棟の建物にひびが入る程度だったのですが、地震後に、以前は不要と言われていた耐震補強が行われることになりました。1 年がかりの工事の末、正面玄関付近の外部に大がかりな補強の構造体が作られ、トイレの窓は小さくなり、廊下の照明が人感センサー付きになったということです。照明の更新目的は節電ですが、元をただせば地震が原因です。

春日ラーニングコモンズは、学生の学習を学生が手助けする仕組みとして数年前から実施してきたものを、



春日ラーニングコモンズ

図書館情報学図書館(春日エリアの図書館)を改築して、専用のスペースを設けたというものです。これまで、図書館は増加する資料を収納するために机が撤

去されて、学習用のスペースは減る一方でした。現代は、紙の資料だけを見るのでは仕事にならず、何かをするにはインターネットにアクセスしたり、人と話したり、パソコンを使ったりするのがあたりまえになっています。ふつうの学生なら学習のヒントが必要な場合も少なくありません(昔だと、友達からふつうに入手できたのですが…)。そこで、図書館入り口付近の雑誌や新聞があった場所や隣接する大学院生室を片付けて、ファミレスふうのスペース、おしゃれな会社ふうのスペースや会議室ふうのスペースを整備し、そこに端末 10 台と相談員の学生を配置しました。授業の履修相談とか、レポートの書き方相談、プレゼンの予行練習など、あるいは単なる自習空間として広く活用されています。

さて、今年 7 月に、すべての筑波大学関係者を結ぶ交流の場として「校友会」(<https://alumni.tsukuba.ac.jp/>) ができました。校友会は、卒業生に someone@alumni.tsukuba.ac.jp というメールアドレスを配ったり、SNS でメンバがコミュニケーションを取り合ったりするものです。橋会のメンバにも個別に連絡があると思いますので、少しは怪しむにしても、快くご協力頂けると幸いです。また知識情報・図書館学類の Web ページ <http://klis.tsukuba.ac.jp> には学類の近況、春日ラーニングコモンズの情報、学生の活動、広報誌 KLiS TODAY などが掲載されています。一読頂き、現役学生や教員へのメッセージを頂ければ幸いです。みなさまが、図書館情報大学・筑波大学での生活を懐かしいと感じるのであれば、専門は違っても、ご子弟あるいはお知り合いに筑波大学への進学をおすすめ頂けると幸いに存じます。機会があれば、東京から至近のつくばをご訪問ください。

第9回総会の記録

〈日時〉平成24年7月21日(土)

〈会場〉茗溪会館 5階会議室

〈出席者〉理事・監事を含め、約20名

〈総会議事〉

(1) 開会挨拶 (森茜会長)

(2) 来賓紹介

- ・長谷川秀彦 (筑波大学知識情報・図書館学類長)
- ・植松貞夫 (筑波大学 元図書館情報メディア研究科長)
- ・中山伸一 (筑波大学附属図書館長)

長谷川秀彦学類長より挨拶

- ・筑波大学東京キャンパス文京校舎の移転整備
- ・筑波大学校友会の発足とサイト開設
- ・入学志願者数と卒業生進路動向
- ・教員の定年退官・退職・異動

(3) 議長選出と議事録署名人の指名

森会長が議長に選出され、議事録署名人として、能勢、関川、寺沢の3氏が指名された。

(4) 議事 (以下の議案について、いずれも異議なく了承された。)

1) 平成23年度事業報告及び決算報告

1. 会員現勢 (平成23年度末現在)

会員1679名、平成23年度中の入会3名、学生会員からの移行16名、退会14名、逝去1名

2. 事業報告… (別項の通り)

3. 決算報告… (別項の通り)

2) 第5期役員を選出・顧問の推戴

(1) 第5期役員 (任期:平成24年7月21日～平成26年7月20日)を選出

(2) 中山伸一教授を顧問に推戴

3) 平成24年度事業計画案及び予算案

1. 事業計画

- (1) 会員の一層の拡充
- (2) 会報の発行
- (3) 筑波大学との統合10周年記念事業

(4) 全卒業生交流会「大橘会」(第4回)の開催

(5) 公開イベントの開催

(6) 筑波大学校友会及び同窓生各グループ活動との連携

(7) その他

2. 予算案… (別項の通り)

茗溪会の会費割引制度によって、平成24年3月卒業・修了生から、入会金および会費(卒業・修了後3年間)の納入が猶予されることになったことを補足説明。

4) 茗溪会の一般社団法人移行に伴う茗溪会代議員の選出

- ・一般社団法人茗溪会の代議員選出規定の説明。
- ・支部橘会の推薦により代議員7人選出を報告。

5) 筑波大学校友会サイトについて (報告)

筑波大学本部に担当部署を置く筑波大学校友会が発足した。校友会ではWeb上のSNS(ソーシャルネットワークサービス)を中心に交流を進める。同窓会組織の図書館情報学橘会とはサイト間でリンクを設ける。

6) 筑波大学との統合10周年記念事業(自由討議)

- ・筑波大学との統合から10周年を迎え、大学と共同で記念行事の開催を計画している。
- ・開催形式、内容、会場などについて意見交換。

7) 質疑応答

会報に掲載する決算・予算の会計報告を項目ごとの内容までわかるように示して欲しい、と要望が出され、できるだけわかりやすい形で掲載する方針を説明。

(橘会理事 城谷浩 [図情大 昭和59])

◇平成 23 年度決算報告◇

一 般 会 計

収入の部		支出の部	
前年度繰越	7,820,618 円	支出	2,072,108 円
収入	2,049,648 円	次年度繰越	7,798,158 円
合計	9,870,266 円	合計	9,870,266 円

特 別 会 計

収入の部		支出の部	
前年度繰越	2,186,945 円	支出	830,870 円
収入	287 円	次年度繰越	1,356,362 円
合計	2,187,232 円	合計	2,187,232 円

一般会計 内訳

収 入 の 部

項目	決算額
前年度繰越	7,820,618 円
会費	913,500 円
入会金	9,000 円
維持費	524,000 円
寄付金	216,630 円
補助収入	365,000 円
雑収入	21,518 円
小計	2,049,648 円
収入 合計	9,870,266 円

支 出 の 部

項目	決算額
広報費	16,490 円
印刷製本費	362,067 円
通信費	430,868 円
貸借費	27,720 円
大学支援金	0 円
茗溪会本部会費支払い	843,600 円
諸謝金	320,000 円
慶弔費	0 円
消耗品費	44,650 円
諸経費	26,713 円
支出 合計	2,072,108 円
次年度繰越	7,798,158 円
総計	9,870,266 円

特別会計（筑波大学支援図書館情報学振興基金）

内 訳

収 入 の 部

項目	決算額
前年度繰越	2,186,945 円
利子	287 円
小計	287 円
収入 合計	2,187,232 円

支 出 の 部

項目	決算額
大学支援金	829,925 円
諸経費	945 円
支出 合計	830,870 円
次年度繰越	1,356,362 円
総計	2,187,232 円

注：支出の部「大学支援金」の内容は下記のとおり

- 図書館実習連絡費寄附
- 図書館情報学海外研修助成支援
- 卒業式祝賀会支援

◇平成24年度予算 一般会計◇

収入の部

項目	予算額
前年度繰越金	7,798,158 円
年会費	1,050,000 円
入会金	30,000 円
維持費	560,000 円
寄附金	120,000 円
補助金等収入	260,000 円
雑収入	20,000 円
収入小計	2,040,000 円
合計	9,838,158 円

支出の部

項目	予算額
広報費	20,000 円
印刷製本費	430,000 円
通信費	450,000 円
賃借料	30,000 円
大学支援金	100,000 円
茗溪会本部会費支払い	975,000 円
諸謝金	200,000 円
慶弔費	50,000 円
消耗品費	10,000 円
諸経費	30,000 円
支出小計	2,295,000 円
予備費	7,543,158 円
合計	9,838,158 円

注：特別会計は大学側からの要望により支出するため、予算はありません。

※※※

平成 23 年度活動報告

(1) 筑波大学行事への参加

平成 23 年度の卒業式に森会長が出席した。

(2) 第 8 回総会の開催

茗溪会支部「図書館情報学橋会」としての第 8 回総会を平成 23 年 7 月 30 日（土）に開催した。

(3) 会報第 12 号の発行

「図書館情報学橋会会報」第 12 号（通号 18 号）を平成 23 年 9 月に発行した。

(4) 筑波大学図書館情報メディア研究科・情報学群知識情報・図書館学類創設 90 周年事業の開催

2012 年が筑波大学図書館情報メディア研究科・情報学群知識情報・図書館学類の全身機関図書館員教習所の創設から 90 周年になることを記念して、同研究科及び同学類との共催で標記イベントを多彩に開催した。

この事業は、全卒業生が集い友好を深める場としてするとともに、公開事業として市民に開かれ、多くの参加者を得た。

また、事業終了後、『「図書館学校」創設 90 周年記念事業報告書』が刊行され、橋会会員等に配布された。

事業内容は次の通りだった。

第 1 部 記念式典及び記念スピーチ

祝辞 社団法人茗溪会会長 西野虎之介

記念スピーチ 筑波大学名誉教授 寺田光孝

演題「図書館員教習所から 90 年を振り返って」

第 2 部 記念講演「読書、知識、生きる喜び」

講演 阿刀田高(作家、元日本ペンクラブ会長、文部省図書館職員養成所卒)

朗読 阿刀田慶子「あやかしの声」

第 3 部 記念展示「知識情報とメディアの世界」

(5) 全卒業生交流会「^{だいたちばなかい}大橋会」(第 3 回)

全卒業生が集い友好を深める場として次の事業を実施した。

1) キャンパス見学

2) 卒業生懇親会

(6) 茗溪会本部行事参加

平成 23 年 5 月 27 日の茗溪会総会に代議員として森会長が出席した。

(7) 「筑波大学支援図書館情報学振興基金」の活動

筑波大学図書館情報学海外研修助成、図書館情報学実習補助の支援を行った。

以上

◇永年のご薫陶ありがとうございました◇

平成 24 年 3 月をもって筑波大学（図書館情報メディア研究科）を以下の 3 人の先生方が退職されました。この内、谷口先生にメッセージをご寄稿いただきました。有難うございました。

石塚英弘・教授

【専門】図書館情報システム【授業】情報サービスシステム、デジタルドキュメントほか

谷口祥一・教授

【専門】情報メディア組織化【授業】知識情報組織化論、知識情報の記述ほか

武者小路澄子・准教授

【専門】知識の構築過程【授業】知識形成論、質的調査法ほか

☆☆☆

筑波大学を離れて

谷口 祥一

この 3 月末に長年勤めてきた筑波大学を辞し、4 月から慶應義塾大学文学部図書館・情報学専攻に移りました。

1988 年に黒岩高明先生（現：図書館情報大学名誉教授）から助手として図書館情報大学に戻るお話をいただき、それまで図書館の現場に勤めていた（それゆえ教育研究の実績のない）私には驚きと不安の中での再出発でした。それから 24 年間、教育と研究に従事し、どうか勤めてくれたのも、同僚の教職員の方々、そして拙い授業に付き合ってくれた学生のおかげと考えております。関係された、みなさまに今更ながら感謝するばかりです。

採用してもらい、その後長年育ててもらった図書館情報大学を引き継ぐ筑波大学には、もっと貢献しなければならない立場でありましたが、今回勝手にいって離れることにいたしました。長年の勤務から日々の垢のようなものが堆積し、自分に課せられた役割期待や担当領域などにおいて幾分窮屈な思いを抱くようになってきました。それは取りも直さず、現在の筑波大学には多数の優れた教員が密度高く、文字通りひしめいており、そうした中で自らの立ち位置が分からなくなってきたということです。また、私自身のリタイアまでの残り時間において、何かまとまったことを一つぐらいしてみたいとの思いもあり、新しい環境での再出発を選択いたしました。

筑波大学を離れて再認識したのは、図書館情報学を専攻する教員数・大学院生数、施設など、その環境の恵まれている点です。気づくのが遅すぎる（認識が甘すぎる）とのお叱りを受けそうですが、他大学での教員としての勤務経験のなかった私には、頭では理解していたつもりでも、それを肌で実感することはなかなかありませんでした。また、歳を重ねてきたせいも鈍い私であっても、先達たちの努力の営為とそのバトンリレーによる切れ目のない引き継ぎと蓄積つまり歴史が現在の環境をもたらしめているとの認識を併せて得るに至りました。

筑波大学には、今後も図書館情報学の一大拠点である点を積極的・効果的に活かしていただき、図書館情報学そして知識情報学を大きく切り開いてほしいと願っております。元来そうした使命と責任を負った組織であるということです。これからは、外部から声援を送らせていただきます。また、引き続き図書館情報学の領域にとどまり教育と研究に従事いたしますので、協力・協調そして競争の精神で新たに関係をもたせていただきたいと思っております。最後になりましたが、筑波大学さらには図書館情報学の教育研究を支える一つの柱として橘会がさらに発展することを祈念しております。長年にわたり、いろいろとありがとうございました。

◇橋会 筑波大学生に海外研修支援◇

平成 23 年度図書館情報学海外研修助成

橋会では、筑波大学の「図書館情報学振興会」を継承し、海外からの留学生との懇親会と海外への留学生の研修への助成を目的とする「筑波大学支援図書館情報学振興基金」を設置しています。知識情報・図書館学類、図書館情報専門学群、図書館情報メディア研究科の公募および審査にもとづいて、平成 23 年度は、次の 4 名の図書館情報学海外研修助成を実施しました。以下、研修者(敬称略)、所属・学年、研修期間、目的地、目的。

- ・ 立野則子 知識情報・図書館学類 4 年 H23.8.28-9.3 (ニュージーランド) 卒業研究「ニュージーランド・オークランド市の公共図書館サービス:地域の特徴を活かしたプログラムに着目して」に係るフィールド・ワーク、インタビュー調査
- ・ 向後直美 知識情報・図書館学類 4 年 H23.9.2-9 (米国) 卒業研究「20 世紀初頭のアメリカ公共図書館における日系人問題について:カリフォルニア州サンフランシスコ市を例に」の資料収集
- ・ 山口恭平 図書館情報メディア研究科博士前期課程 1 年 H23.8.15-8.29 (イギリス、オランダ) 海外の書店におけるキュレーションの実態調査
- ・ ナワーダ マムーン 図書館情報メディア研究科博士後期課程 2 年 H23.10.13-28 (カナダ) 遠隔コミュニケーション、とくに遠隔会議と遠隔食事に関する調査研究

報告書は <<http://www.slis.tsukuba.ac.jp/grad/students/training.html>>をご覧ください。



情報学群知識情報・図書館学類が『看板学部』として紹介されました

倉部史記『看板学部と看板倒れ学部 - 大学教育は玉石混交』(中公新書ラクレ)で情報学群知識情報・図書館学類が紹介されています。この本は高校生の進路選択アドバイザーの著者が、最近乱立している中身のわかりにくい名前の学部や学科を中心に、その内容を整理したものです。

書名の『看板学部』として、歴史的に定評のある学部が取り上げられていますが、その中で「長い間「そこでしか学べない」「珍しい」というオンリーワンの存在だった学部が、その歴史の中で特定の業界に多くの卒業生を送り出し、看板学部と呼ばれることになった例」として「図書館情報学」の筑波大学情報学群知識情報・図書館学類が取り上げられています。「中でも筑波大学は、この学問を専門に扱う「図書館情報大学」を統合したという経緯があり、この分野では特によく知られています。」(p.67)

書名のもう一方の『看板倒れの学部』については、詳しくはこの本をご覧ください。

平成 24 年度分会費納入のお願い

平成 24 年度分の会費につきまして、今年度未納入の会員におかれましては、以下の郵便振替口座または銀行振込により納入くださるようお願いいたします。

なお、通常会員の会費は 3,500 円です。また通常会費完納者(35 回分納入済みの方)には、橘会の円滑な運営のため橘会固有の協力会費 2,000 円を維持費としてお願いしています。

郵便振替 口座番号 00110-5-656101
 加入者名 図書館情報学橘会
 銀行振込 ゆうちょ銀行 〇一九店 (ゼロイチキユウ店)
 口座番号 0656101
 預金種目 当座
 口座名義 トシヨカンジヨウホウガクタチバナカイ
 * 「振込依頼人名」欄に会員番号の入力をお願いします。

◇会員現勢◇

1. 会員数

1,694 名 (平成 24 年 8 月 27 日現在)

2. 卒業校別内訳

卒業校	人数
文図教習所	1
文図講習所	66
国図附養	1
文図養成所	79
文図養成 A	165
文図養成 B	64
文図養成 1 B	3
文図養成 2 B	11
図短付養成	21
図短特養課	125
図短図書館	314
図短文献情	79
図大図情専	11
図大図情	536

図大図情修	18
図大博前期	11
図大博後期	1
筑図	143
筑博図情修士	3
筑博図後期	3
筑博図前期	3
筑知図	36
合計	1,694

3. 新入会員(今年度卒業生から入会金廃止。
 会費 3 年間免除)
 (以下、HP 掲載では省略)

以上

社団法人茗溪会支部図書館情報学橘会

〒305-8550 つくば市春日 1-2 E-mail info@tachibana-kai.com

公式ホームページ <http://www.tachibana-kai.com/index.html>

発行: 2012 年 9 月 1 日